

スターフライヤー、北九州—釜山線、利用者10万人突破

スターフライヤーは15日、同社初の国際線定期便である北九州—釜山線(毎日2往復4便)の利用者が、通算10万人を突破したと発表した。これを記念して「平日日帰り往復6,600円運賃」を期間限定で発売する。

釜山線は昨年7月、同社初の国際定期便として、1日2往復で就航した。日帰り可能な国際便で、就航直後の搭乗率は82.0%(7月平均)だったが、直後に竹島を巡る日韓関係の悪化に見舞われ、9月には37.5%にまで落ち込んだ。その後は韓国での営業強化に加え、円安も追い風となり、3、4月とも搭乗率は、採算の目安とされ、当面の目標の6割超を確保している。

(読売新聞)5/15

<http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20130515-OYS1T00763.htm> (-> <http://kyushu.yomiuri.co.jp/news/national/20130515-OYS1T00763.htm>)

(スターフライヤープレスリリース)5/15

<http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130515043118.pdf> (-> <http://contents.xj-storage.jp/contents/92060/T/PDF-GENERAL/140120130515043118.pdf>)

米子空港、今夏、香港からのチャーター便24往復

鳥取県は15日、日本向け旅行で香港最大手のEGLツアーズと、7～8月に香港—米子空港間でチャーター便24往復を運航させることで合意し、協力確認書に調印した。香港から最大約3800人の入り込みが見込まれ、県で過去最大規模の連続チャーター便受け入れとなる。

香港航空の174人乗り航空機を使い、7月16日～8月31日、1日おきに24往復させる。

なお、香港から鳥取県へのチャーター便が運航されるのは5年ぶりとなる。

(日テレ)5/15

<http://news24.jp/nnn/news8753426.html> (-> <http://news24.jp/nnn/news8753426.html>)

(中国新聞)5/15

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201305160003.html> (-> <http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201305160003.html>)

ボーイング787対応：全日空、パイロット慣熟飛行開始

(日経によると)

全日空は15日、発煙トラブルを受けバッテリーシステムを改修したボーイング787の運航再開に向けた安全対策として、同機種を長期間操縦していないパイロットの訓練を兼ねた「慣熟飛行」を成田—札幌間で実施した。

梶山弘志国土交通副大臣も同乗し、搭乗後の取材に「バッテリーは、飛行中も安定した数値が出ていることを確認した」と語った。

全日空は6月の運航再開に向け、保有する計17機の改修作業と並行して機体の状況を点検する試験飛行を4月28日から開始。乗員向けには約230回の慣熟飛行を予定し、順次実施している

(日経)5/15

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG1504D_V10C13A5CR8000/ (->

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG1504D_V10C13A5CR8000/)

(国交省プレスリリース)5/14

http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku11_hh_000046.html (-> http://www.mlit.go.jp/report/press/kouku11_hh_000046.html)

新関空会社、2013年3月期 連結決算、営業益前期比1.5倍

新関西国際空港会社は15日、2013年3月期の連結決算を発表した。格安航空会社の就航などで旅客数が増え、旧関空会社の4～6月期を含めた営業利益は前の期比1.5倍の267億円になった。国際線の発着数が過去最多で、売上高は同15%増の1017億円だった。

今期もLCCの増便で旅客需要は堅調に推移すると見込んでおり、売上高は前期比11%増の1129億円、営業利益は同3%増の277億円を予想している。

(日経)5/15

http://www.nikkei.com/markets/kigyo/gyoseki.aspx?g=DGXNASDF15009_15052013EE8000 (->

http://www.nikkei.com/markets/kigyo/gyoseki.aspx?g=DGXNASDF15009_15052013EE8000)

(日刊航空)5/16

<http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0516-02.pdf> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/2013-0516-02.pdf>)

(新関西国際空港 株) プレスリリース)5/15

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1737/2013.3renketukessam.pdf> (->

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1737/2013.3renketukessam.pdf>)

静岡空港、4月利用状況、台北線が好調

静岡県は、4月の静岡空港の利用状況を発表した。それによると、国内外の全路線を合わせた搭乗率は54.9%で前年同月に比べて8.3ポイント下回ったが、搭乗者数は3万6939人で同1018人増となり、昨年11月から6カ月連続して対前年同月比で増加した。

内訳は、国内線が搭乗者数2万2,272人(同1万8,764人)で搭乗率57.5%(同66.8%)、国際線が搭乗者数1万4,667人(同1万7,157人)で搭乗率51.4%(同59.6%)。

国際線では、台北線が搭乗者数4154人、搭乗率77.3%と搭乗者数・搭乗率ともに過去最高を記録した。同便は3月から3便から4便に増便したこと、台湾からの利用客が6割と増えて好調となった。

(日刊航空)5/15

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(産経ニュース)5/16

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/130516/szk13051602080001-n1.htm> (->

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/130516/szk13051602080001-n1.htm>)

NAA、成田空港のLCC6社のシェア、2013年度は12%と予想

成田国際空港会社(NAA)は14日、成田空港の総発着回数占めるLCCのシェアについて、2012年度の6.1%から2013年度は12%に倍増する見込みを明らかにした。

また、国際線旅客便数に占める割合では、2013年度は7%(2012年度2.7%)に拡大すると予想。国内線では2012年度の23.6%が2013年度は36%を占めるようにとした。

(日刊航空)5/15

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

AIR DO、4月旅客輸送実績、新規開設2路線好調

AIR DOはこのほど、2013年4月の旅客輸送実績(速報値)を発表した。

それによると、全路線合計の搭乗者数は17万9,354人で、座席供給4.9%の増加に対し旅客数は1.4%増加。全路線平均搭乗率は62.6%だった。

3月31日に新規開設した羽田—釧路線の搭乗率は72.1%、札幌—岡山線の同社販売分の搭乗率は81.3%(全体では53.4%)と、ともに好調だった。

(日刊航空)5/15

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

羽田空港、日本初のトランジットホテル、2014年9月末開業予定

日本空港ビルデング、三菱地所、ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツは15日、羽田空港国際線旅客ターミナル地区に新設するホテル施設について、2014年9月末のオープンに向け17日から着工すると発表した。また、新ホテルについて、日本で初めて保安エリアにも乗り継ぎ客のために客室17室やリフレッシュルームを設ける。

名称は「ロイヤルパークホテル ザ 羽田」として開業、日本のおもてなし文化の発信拠点を目指す。

(日刊航空)5/16

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(日本空港ビル プレスリリース)5/15

http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/files/whats_new/458_0515_0920.pdf (-> http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/files/whats_new/458_0515_0920.pdf)

リース事業のエアキャッスル、保有航空機5年後に2倍へ拡大、アジアの高需要成長が背景

(bloombergによると)

航空リース事業を手掛ける米エアキャッスルは、アジア地域での航空需要の高まりを背景に航空機購入を急ぎ、保有する航空機の資産規模を5年後をめどに現在のおよそ2倍に当たる100億ドル(約1兆円)まで拡大させる方針だ。同社はボーイングなど民間旅客ジェット159機を保有している。

来日中の同社のロン・ウェインシャル最高経営責任者(CEO)が14日、ブルームバーグ・ニュースのインタビューで語った。ウェインシャル氏は、今期に8億5000万ドル(約870億円)を航空機に投資する考えを明らかにした。

ウェインシャル氏は、「世界の中でアジア地域ほど大型航空機の強い需要のある地域はない」として、当面は同地域を中心に事業を展開する考えを強調した。ボーイングは最新の予測で、航空市場の成長はアジア・太平洋地域がリードし、今後20年間で域内の国内外旅行の需要は年間6.7%で成長すると見込んでいる。これに伴い新規導入機材は世界で約3万4000機と予測している。

エアキャッスルは2005年の設立。本社をコネチカット州スタンフォードに置き、6カ国で69の航空会社と航空機のリース事業を展開している。社員数は85人。アジア地域の旅行需要の増大に伴う航空機需要の高まりを取り込むために既にシンガポールに拠点を設置、これまで2人だった人員を8人に拡大したという。

ウェインシャル氏は「現在米国の金利動向は資金調達の見通しから極めて魅力的な状態にある」として、年内にも社債を発行する考えも明らかにした。調達資金はボーイング777などの航空機購入などに充当する見通し。同社のメーカー別の旅客ジェット機の保有数は、ボーイングが101機、欧州エアバスが54機、ブラジルのエンブラエル4機となっている。

(bloomberg)5/15

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MMTH8E6S972M01.html> (-> <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MMTH8E6S972M01.html>)

仁川空港公社、アメリカン航空、ダラス線就航でハブ空港競争力強化

アメリカン航空は、5月9日から、仁川—ダラス線の新規就航を開始した。使用機材はボーイング777-200機(245席)で1日1便を運航する。

それに先立ち、仁川空港公社は9日、「日本の成田空港を東北アジア地域の基点とみなしてきたアメリカン航空が、アジア地域の戦略的新規就航地へ仁川空港を選択したことにより、今後、仁川空港がグローバル大型航空会社の地域ハブとなるためのしっかりとした基盤を固めたことは勿論、中国、日本等の競争空港との格差をさらに広げられると見える。」というコメントを発表している。

(仁川空港プレスリリース)5/9

<http://www.airport.kr/notice/NoticeView.iaa?functioncode=48&bulletinid=9821> (-> <http://www.airport.kr/notice/NoticeView.iaa?functioncode=48&bulletinid=9821>)

仁川空港、乗り換え旅客、5000万人突破

「ハブ空港」として韓国が整備を進めている仁川空港は15日、2001年開港以来乗り換え旅客が5000万人を突破し記念式典を開いた。

韓国は仁川空港について、航空路線網の中心「ハブ空港」とするために各国の航空会社に路線の誘致を働きかけるなど国を挙げて整備を進めており、乗り降りする乗客だけでなく、アジア各国からインチョン空港を経由してほかの国々に向かう乗り換え旅客も増加している。

韓国政府や空港公社は、仁川空港の乗り換え時間を利用してソウル市内を観光するツアーも実施しており、来月からは必要経費を除いて参加費を無料にするなど、さらなる利用客の誘致を図り、利用客の増加を見越して、今年新たなターミナルビルの建設に着手する計画。

なお、仁川空港の乗り換え旅客数は、おとし成田空港を超えている。

(NHKニュース)5/16

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130515/k10014601861000.html> (->

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20130515/k10014601861000.html>)